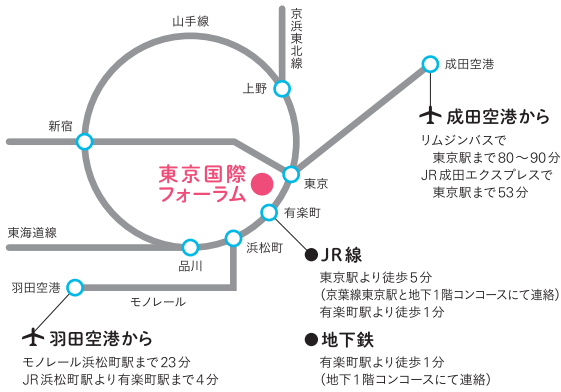
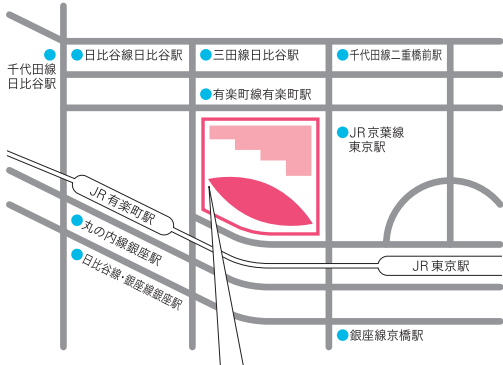


## 会場アクセス

### 東京国際フォーラム 地下2階(展示ホール2)

東京都千代田区丸の内3-5-1 Tel:03-5221-9000(代)



2014年、理工学部創立75年。

### 慶應義塾 先端科学技術研究センター(KLL)

〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1

Tel:045-566-1794 Fax:045-566-1436 E-mail: ktm@kll.keio.ac.jp

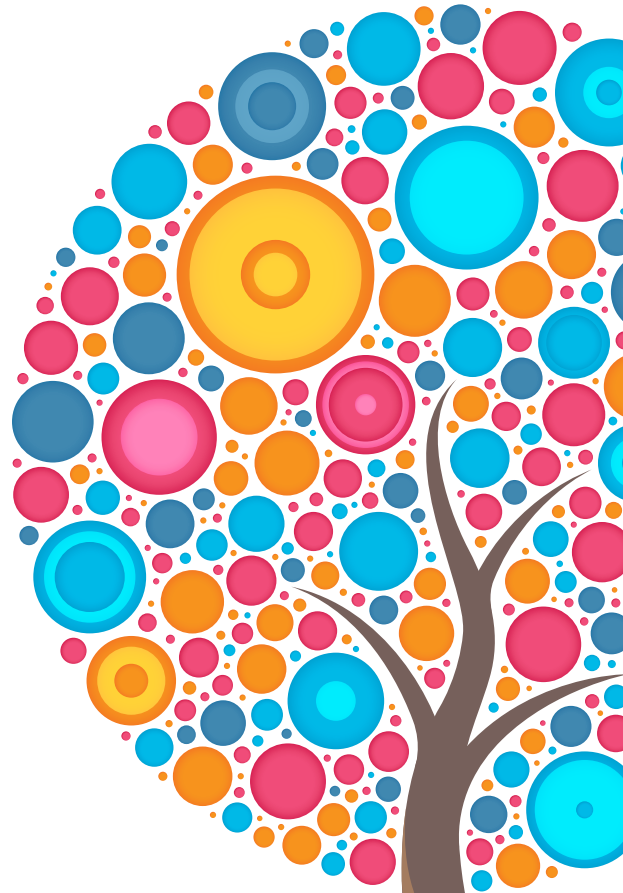
[www.kll.keio.ac.jp/ktm/](http://www.kll.keio.ac.jp/ktm/)



資源の有効利用のため、  
大豆油インキを使用しています。

## 第14回 慶應科学技術展

# KEIO TECHNO MALL 2013



## 育てる産学 育つ夢

2013 **12.13** [金] 10:00  
18:00

東京国際フォーラム 地下2階(展示ホール2)

入場  
無料

会場マップ・イベントスケジュールは、巻末の見開きをご覧ください。

# KEIO TECHNO-MALL

## へようこそ。



慶應義塾大学理工学部長  
大学院理工学研究科委員長

**青山 藤詞郎**



慶應義塾  
先端科学技術研究センター所長

**鈴木 哲也**

慶應義塾先端科学技術研究センター(KLL)主催の慶應科学技術展「KEIO TECHNO-MALL」は、今年で14回目を迎えます。今回は、2014年に理工学部が創立75年を迎えるにあたり、その記念行事の一環としての特別企画もご用意しております。

技術展示の内容は、皆様のご支援とご指導によりまして、年々その内容が充実しております。多くの展示が実機によるデモンストレーションを含んでおり、研究成果をより具体的にご理解いただけるものと思います。展示ブース、あるいはイベント会場にて、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

理工学部は、創立75年を迎えるにあたり、さらに25年先の創立100年へ向けた新たなビジョンの実現に向けた記念事業を計画し、その実現へ向けて着々と準備を進めております。記念事業の目標は、世界トップレベルの教育研究拠点の形成を目指し、世界に通じる人材の育成と、グローバルリーダーとしての研究者の養成であります。その一環として、新たな産学官連携研究拠点として慶應イノベーションファウンダリーを設立し、研究推進体制を強化します。

KLLは、新たな組織と連携することにより、産学官連携研究活動の益々の発展へ向けた重要な役割を果たしてまいります。

今後益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。

大学と産業界がどのように連携し、新しい次世代技術を育てていくかは、ここ10～20年、我が国にとって重要な課題です。欧米においては、大学発の技術を産業界が取り込み、発展させる仕組みが効率良く機能しており、新規技術の産業界への継続的な導入が社会発展を支えております。バブルの崩壊以降、我が国でも大学への期待が高まり、産学連携の「仕組み作り」を模索してきましたが、まだ発展途上のように思えます。

「産学連携」を成功させるためには、産業界の努力よりも、大学側に多くの努力が必要です。大学組織及び教員一人一人が、自らの研究の意義、波及効果等を考えながら、研究を進めて行くことも課題です。「面白い」とか「こんなものに使えるかもしれない」というのは、昔の考え方です。現在および未来は、特許を取得し、市場も把握し、コストの妥当性や対抗する技術は何か等を皆に説明できなければなりません。

KLLは大学発の技術を産業界に発信する場として、KEIO TECHNO-MALLを他大学に先駆けて2000年から主催して参りました。研究者自身による、研究成果物の展示をごゆっくりご覧いただき、我々の技術具現化のパートナーとなって下さることを強く希望しております。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

# 育てる産学 育つ夢

夢。

それは漠然とした夢ではなく  
「成功プロセス」のイメージ。

産学連携を通じて  
人材育成や新しいアイデアの創成を求め  
それをきっかけに生まれる輝かしい成果。

そのすべてが成功プロセスとなる。

KEIO TECHNO-MALL 2013なら  
きっとそのプロセスを具体的にイメージできる  
出会いがあるはず。

それは  
革新的な研究内容かもしれません。  
熱心な研究者かもしれません。  
ライブ感溢れるデモ展示かもしれません。  
驚きの講演内容かもしれません。  
未来の研究を担う学生かもしれません。

あなたの夢を実現するための出会いを  
ぜひここで見つけてください。

私はKEIO TECHNO-MALLを  
こんなふうに活用しました!  
(アンケートと事例のご紹介)

P06~

毎年満員のセミナーやイベントは  
事前に内容をチェック!

(イベントのご案内)

※タイムテーブルは巻末の見開きを  
ご覧ください。

P09~

展示内容を事前に調べておけば  
効率的に見学できます!

(展示テーマのご紹介)

P12~

◆ エレクトロニクス

◆ バイオメディカル

◆ 管理工学

◆ マテリアル

◆ 情報コミュニケーション

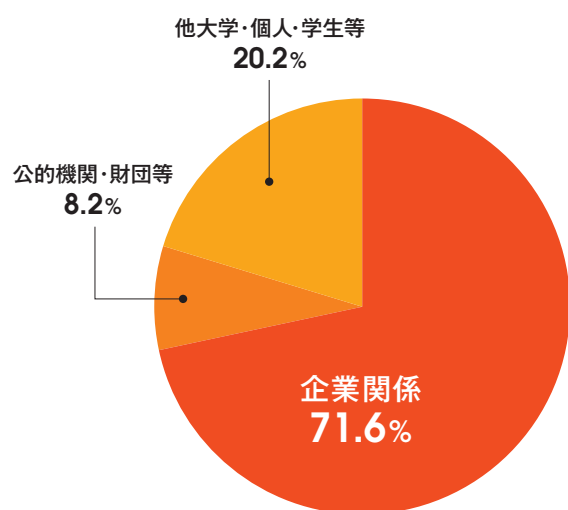
◆ 社会・環境

◆ メカニクス

## 2012年度 ご来場者アンケート

最先端の技術を体験いただけるKEIO TECHNO-MALLには、毎年幅広い分野の方々にご来場いただいています。ご来場の目的も、研究・開発の探究や経営アイデアの発掘など多岐にわたっているようです。実物展示やデモンストレーションも多いので、短時間で効率的に情報収集したいという方は、ぜひ連携相談窓口をご活用ください。

### 【ご来場者の内訳】



※ご来場者内訳、職種内訳とも、無記入・無回答を除く全回答における割合です。

企業と回答した方の内訳は、製品開発が最も多く24.5%。次いで経営、企画がそれぞれ22.2%。研究部門の方にも多くご来場いただきました。

## みなさまからのご意見・ご感想

各ブースの展示方法もよく、説明にあっていた学生さん、先生方がとても丁寧でわかりやすく好感がもてました。また研究に対する姿勢も真摯でディスカッションが楽しめました。  
(50歳 研究員)

学生ひとりひとりのレベルが非常に高いと思いました。  
(29歳 設計)

産業、社会のニーズを反映した新規テーマが多い点は評価できます。ブース説明を熱心にしていただき、内容を良く理解することができました。ただ、学生さんご自身のテーマ以外の説明はつらかったようです。  
(53歳 メーカー研究職)

## ほんとにあった事例のお話

### ① 共同研究に発展!!



競合の可能性もあったので、当日は細かいお話をせずに、後日連携相談窓口を通して研究者とアポイントをとりました。展示会での運命的な出会いが現在の共同研究につながっていると思うと感慨ひとしおです。

(官公庁 研究者)

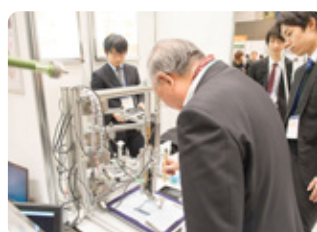
### ② 人材発掘に!!



学生たちのプレゼンに向かう姿勢と専門知識には感服しました。人事畑の私にも、難しい研究内容をわかりやすく説明しようとする姿勢は素晴らしいと感じました。ここは優秀な人材の宝庫。素晴らしい出会いができました。

(一般企業 人事)

### ③ デモ展示で即決!!



展示会の臨場感あふれるデモ展示を見て、3年間ストップしていた医療関連プロジェクトの研究再開を即決。国の助成で、初の日本製循環器用機器が誕生しました。新たな発見や、思いがけない出会いができる展示会を毎年楽しみにしています。(医療機器メーカー 役員)

説明がわかりやすく、楽しかったし、未来への希望がもてました。  
(58歳 主婦)

直接業務に結びつく情報は少なかったが、発想・アイデアの面で参考になることが多々ありました。今後も継続開催を希望します。(44歳 会社員)

★こんなご意見の方々、本年度は、ぜひ連携相談窓口をご利用ください。

「企業との共同出展があると、応用先が実感できるので良いと思う」  
(30歳 メーカー研究部門)

「興味本位で去年も来たが、やはり難しいね…」(52歳 会社員)

「毎年、新しい技術・研究テーマなど楽しみです。何か参考にしたいのですが、まだ見つかりません。研究もがんばってください」(61歳 会社員)

## KEIO TECHNO-MALLは 4つの場を提供します。

### 1 研究者、研究テーマとの 出会い

インターネットなどでは得られない生の情報、思いもよらない出会いが期待できます。自社製品や事業に直接関係するテーマだけでなく、新しい事業展開が期待できる研究テーマが見つかるかもしれません。

### 2 広がり柔軟性

展示ブースやセミナーで研究内容を知り、研究者と実際に話し、実物に触って感じることで、可能性の広がりを実感いただけます。また、大学との連携にあたっては、KLL（慶應義塾先端科学技術研究センター）が手続きや契約面までのご相談に柔軟に対応いたします。

### 3 開発成果の社内PR

研究成果を学術的・中立的に公開する場であるKEIO TECHNO-MALLでなら、自社R&D活動の一端として産学連携の成果を社内に示すことができ、事業展開への社内の地ならしを進める場として活用できます。

### 4 製品 / 技術の可能性探索

「この研究にはうちのデバイスが役に立つのでは？」などご来場の方からの提案も大歓迎です。「人・モノ・資金・情報」の動きのなかで新たな製品や技術の開発へつなげる場を提供します。

# KEIO TECHNO MALL 2013

## イベント・セミナー内容 展示テーマの ご案内

# メ | イ | ン | イ | ベ | ン | ト

～理工学部創立75年記念イベント～

## 今こそ大学に求められる世界人の育成： 理系男女の挑戦

**会場** イベント会場 **時間** 13:30-15:00 (90分)

40歳代を迎えた卒業生が社会の発展に大いに寄与し、豊かな人生を送っていること、そして「慶應理工で学んで本当に良かった」と振り返ってくれることが私達の教育目標の一つです。卒業から20年後の成功は生涯の成功につながると思っています。

この20年後の成功につながる教育は高度成長時代は比較的簡単でした。しかし、活躍の舞台が日本から世界に広がった現在、異文化対応力と語学力はもちろんのこと、刻々と変化する世界情勢に対応した協調力と競争力を持ち備えた慶應ボーイズ&ガールズを育てる教育改革が必要とされています。

このイベントでは世界で活躍する卒業生と、教育改革に取り組む現役教員と一緒に「今こそ必要とされる世界人の育成」について議論します。



ストームハーバー証券株式会社  
代表取締役社長

那珂 通雅 氏



アレックス株式会社  
代表取締役社長兼CEO

辻野 晃一郎 氏



株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所  
アソシエイトリサーチャー

遠藤 謙 氏



理工学部  
外国語・総合教育教室 教授

小原 京子



理工学部  
外国語・総合教育教室 専任講師

井本 由紀



理工学部  
物理情報工学科 教授

伊藤 公平 (ファシリテータ)

## ラウンドテーブルセッションⅠ 「産学連携のはじめかた」

大学における基礎研究と企業における商品開発の間には様々なギャップが存在します。新たな産学連携の立ち上げには、適切なマッチングが必要不可欠であり、コーディネータの役割が重要になります。このラウンドテーブルセッションでは、産学連携のコーディネート活動に携わってこられた方を中心に、産学連携の立ち上げにおける課題やそれらの解決方法について議論します。

10:30-11:50 (80分)

(公財)川崎市産業振興財団  
産業支援部長 櫻井 亨 氏



(公財)横浜企業経営支援財団  
経営支援部長 長谷部 亮 氏



研究連携推進本部  
産学官連携コーディネーター  
竹内 正雄



理工学部 機械工学科  
准教授 宮田 昌悟



KLLリエゾン・オフィス  
マネージャー 佐藤 千恵



KLL 副所長  
岡田 英史 (ファシリテータ)



## ラウンドテーブルセッションⅡ 「新機能性マテリアル研究から育つ夢」

新機能性マテリアルの創製と物性評価、ナノデバイス開発について、各分野の第一線で活躍する研究者が、最先端の研究成果をご紹介しますと同時に、新機能性マテリアル研究から育つ・育てる夢について熱く語ります。

15:40-17:00 (80分)

理工学部 電子工学科  
教授 内田 建



理工学部 化学科  
教授 栄長 泰明



理工学部 物理学科  
准教授 能崎 幸雄



理工学部 物理情報工学科 准教授  
早瀬 潤子 (ファシリテータ)



## 連携技術セミナー (各30分)

12:20-12:50

### タンパク質構造の変化で紐解く神経難病のメカニズム

生体内で機能するために非常に複雑な立体構造を形成するタンパク質。一部のタンパク質の構造が異常になるとアルツハイマー病などの神経難病を引き起こすことが知られています。タンパク質構造を制御する生体内のメカニズムを明らかにすることで、神経難病の治療法開発をすすめる研究についてご紹介します。

理工学部 化学科 准教授 古川 良明



13:00-13:30

### 化学センサーをインクジェット技術で紙に印刷

家庭用のプリンターに使われているインクジェットプリント技術は、大量生産が可能な方法として工業分野でも利用されています。この技術を利用し、紙を基板とすることで、安価で使い捨てができます。さらに、取り扱いが容易な医療・環境分析のための化学センサーの開発についてもご紹介します。

理工学部 応用化学科 准教授 チツテリオ・ダニエル



15:10-15:40

### 通信ネットワークを制御システムとして捉える

普段何気なく利用している通信ネットワークでは、品質や信頼性を維持するために様々な制御技術が導入されています。本講演では、制御工学的アプローチによりネットワークの挙動を制御する手法について主に低消費電力化の観点からご紹介します。また将来のスマートコミュニティに必要とされる通信技術についても展望します。

理工学部 電子工学科 専任講師 久保 亮吾



タイムテーブルは巻末の見開きをご覧ください。

※当日、やむを得ない事情により各イベント・セミナーの内容等を変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

# ブース紹介

## マーク表示について



このマークは慶應義塾保有の特許案件が含まれていることを示します。技術の利用に関するお問い合わせは、会場内、連携相談窓口で承ります。



このマークは連携技術セミナーが行われることを示します。セミナー詳細は、P11をご参照ください。

## エレクトロニクス

### エレクトロニクス

#### BOOTH 1 医用ハプティクス



システムデザイン工学科 教授 大西 公平

人間が操作するマスタロボットと、遠隔地で作業するスレーブロボットを用いたバイラテラル制御により、遠隔地への力覚伝達を実現します。力覚伝達は、ロボット間での、位置追従と作用反作用の法則の実現から達成します。本研究では、これを医療用ロボットへ応用し、操作者を支援します。

### エレクトロニクス

#### BOOTH 2 ナノスケール熱管理工学による新デバイスの創造と機能向上



電子工学科 教授 内田 建

ナノスケールの電子デバイスは、ナノスケールの小さな空間に電流を流すことと微細化による熱伝導率の劣化により、自己加熱とよばれる発熱現象の影響を強く受けています。我々は、この自己加熱によって生じた熱をマネージメントすることで、既存デバイスの性能を良くしたり、新機能デバイスを創出することを目指しています。

### エレクトロニクス

### メカニクス

#### BOOTH 3 分散リアルタイム処理用 Responsive Multithreaded Processor



情報工学科 教授 山崎 信行



RMTPIは、1チップに8スレッド同時実行可能な優先度付SMT機構を備えたプロセッサコア(RMT PU)、実時間通信規格(Responsive Link x 4)、各種I/O(SpaceWire、PCI-X、IEEE1394、PWM等)、IPC制御機構、及びトレース機能等を集積しています。

### エレクトロニクス

#### BOOTH 4 人・環境適応型の福祉機器を目指して



システムデザイン工学科 教授 村上 俊之

これからの高齢化社会に向けた福祉機器の開発では、利用者や環境に適応的なシステムが必要となります。こうしたニーズを考え、人の動きのセンシングに基づいた歩行補助器や車いすなどの構築とその先進制御アルゴリズムの開発を行っています。

### エレクトロニクス

### バイオメディカル

#### BOOTH 5 非接触嚥下機能計測システム



電子工学科 准教授 青木 義満



高齢になると喉のモノを飲み込む機能が低下し、誤嚥などの嚥下障害を引き起こします。豊かな食生活を送るためには、嚥下機能を正しく評価する必要があります。我々は、非接触・非侵襲で喉表面の3次元動的動きを計測し、嚥下機能を定量評価するシステムを開発しました。実演では、あなたの嚥下機能を実際に計測いたします。

### エレクトロニクス

### バイオメディカル

#### BOOTH 6 赤ちゃんを救え! 新生児用呼吸機能評価システム



電子工学科 准教授 青木 義満



早産児の呼吸機能は不安定であり、呼吸の状態を見守る必要があります。従来はセンサ装着の負担から、長時間の見守りが困難でした。我々は、非接触・非侵襲で赤ちゃんの胸腹部の3次元動的動きを画像計測し、呼吸情報を詳細に解析することで、呼吸機能成熟度を定量的に評価するシステムを開発しました。

# バイオメディカル

バイオメディカル

## BOOTH 7 不整脈をぶっとばせ、 慶應発の最新レーザー治療

物理情報工学科 教授 荒井 恒憲



本研究室では、不整脈の非熱的治療に対してPhotodynamic Therapy(PDT)の適用を提案し、臨床用装置の開発を行っています。本ブースでは、基礎研究および動物実験の成果と実用化に向けた今後の展開について紹介し、開発中の治療器によるデモンストレーションを行います。

バイオメディカル

## BOOTH 8 レーザで血管を診て、 拡げて、接げる

物理情報工学科 教授 荒井 恒憲



血管を診断し亀裂なく十分に拡張し、孔の開いた血管を異物なしで接着する、これらが全てレーザー技術で可能になります。我々には十分な特許と実用化実績があります。本ブースでは開発中の治療器によりデモンストレーションを行います。

バイオメディカル

マテリアル

## BOOTH 9 生体・医療材料のための表面改質

機械工学科 教授 小茂鳥 潤



近年、治療のために金属を人の体内に長期間インプラント(埋入)することがあります。長期間の使用に耐える安全な材料を実現するためには、最近、様々な取り組みがされています。ここでは、最近開発した新しい表面改質プロセスについて紹介いたします。

バイオメディカル

情報コミュニケーション

## BOOTH 10 嗅覚検査の健康診断への導入

情報工学科 教授 岡田 謙一



人間は嗅覚によりガス漏れなどの危険を察知したり、病気の初期症状として嗅覚障害が現れたりします。そのため嗅覚に異常がないかを検査することは重要であると考えられます。本研究では短時間で簡単に嗅覚を検査する手法を提案しており、健康診断において嗅覚に異常があるかどうかを調べることができるようになります。

バイオメディカル

情報コミュニケーション

## BOOTH 11 脳と身体を科学する。

生命情報学科 准教授 牛場 潤一  
助教 春日 翔子



私たちは脳が身体を動かす仕組みについて、医学部や関連病院と医工連携体制を敷いて研究を進めています。生体計測や信号処理の技術を駆使してヒトの運動制御の仕組みを研究するとともに、脳卒中片麻痺の方の機能回復を目指して、頭で考えた通りに動く装置の開発とその装置を利用したリハビリテーションを行っています。

バイオメディカル

## BOOTH 12 レーザー加工が拓く生体医用技術

電子工学科 専任講師 寺川 光洋



パルスレーザーを用いた生体医用技術に取り組んでいます。本出展では、細胞内への分子送達技術、薬剤放出技術、生分解性材料の表面加工を紹介します。ドラッグデリバリー、遺伝子治療、再生医療への応用を目指しています。



特許出願あり



## 管理工学

管理工学

社会・環境

BOOTH  
13

### 先端マーケティング分析

-顧客満足度とサービス品質の数値化、  
Webアクセスログデータ分析-



管理工学科 教授 鈴木 秀男

現在、Web環境を用いたマーケティングに関する分析が注目されています。一方、従来からのアンケート調査の分析からも有効な情報が獲得できます。ここでは、プロスポーツの顧客満足度とサービス品質の数値化、就職およびゴルフ関連ECサイトのWebアクセスログデータ分析など、様々なマーケティング分析を紹介します。

管理工学

BOOTH  
14

### 統計的管理図・実験計画法に関する研究



管理工学科 助教 松浦 峻

当研究室では、製造工程の状態のモニタリング手法である統計的管理図、質の高い製造工程の作りこみのための実験計画法について研究しています。多変量特性を同時にモニタリングする管理図、ノイズに対して頑健な製品設計のための実験計画についてその統計的性質を紹介いたします。

## マテリアル

マテリアル

バイオメディカル

BOOTH  
15

### 超精密・マイクロ・ナノ加工



機械工学科 教授 閻 紀旺

高付加価値ものづくりを実現するために、マイクロ・ナノ領域での材料除去・変形および物性制御に基づく高精度・高効率・省エネ・省資源の加工技術の研究開発に取り組んでいます。特に硬脆材料の超精密加工、3次元マイクロ・ナノ構造体の高速形成、レーザ表面処理および欠陥修復を中心に新技術の提案を行っています。

マテリアル

メカニクス

BOOTH  
16

### 電気粘着エラストマの 応用デバイス



システムデザイン工学科 准教授 柿沼 康弘

電氣的に粘着性を制御できる“電気粘着エラストマ(EAG)”の開発研究に着手してから10年が経ちました。10年前に比べ性能も100倍以上向上し、耐傷性も高いEAGが開発され、応用範囲も広がりをみせています。今年は、様々な応用デバイスを展示し、デモを交えてご説明致します。

マテリアル

バイオメディカル

BOOTH  
17

### ダイヤモンドライクカーボン薄膜の 抗血栓性を利用した新しい 医療機器開発



特許出願あり

機械工学科 教授 鈴木 哲也



ダイヤモンドライクカーボン(DLC)薄膜は、摩擦特性、ガスバリア性に優れ、自動車や食品産業をはじめ、多くの分野で実用化されています。DLC薄膜は、抗血栓性にも優れ、付加価値の高い埋め込み型ステントへの応用も進んでいます。ここでは当研究室で開発したフッ素を添加したF-DLC薄膜について紹介いたします。

マテリアル

バイオメディカル

BOOTH  
18

### ダイヤモンドを用いた 超高感度ナノ磁場センサーの開発



物理情報工学科 准教授 早瀬 潤子

高純度ダイヤモンド中に添加した不純物を用いて、既存装置の性能を遥かに超える超高感度ナノ磁場センサーの開発に取り組んでいます。現在のMRIに取って代わるバイオイメージング機器の開発を目指しています。

## マテリアル

BOOTH  
19 新規な金属ナノクラスター  
精密大量合成方法

化学科 教授 兼 JST-ERATO 中嶋プロジェクト研究総括 中嶋 敦



数個から数百個の原子・分子から構成され、特異な性質・機能を有する超微粒子＝ナノクラスターを、大量かつ精密に合成する新しい方法を開発しました。1.高出力マグネトロン・スパッタリング法による金属ナノクラスターの乾式合成。2.マイクロ流体反応器を用いた有機保護金属ナノクラスターの湿式精密合成。

## マテリアル

## メカニクス

BOOTH  
20 構造用鋼のための  
ハイブリッド表面改質

機械工学科 教授 小茂鳥 潤



機械や構造物に利用される金属は、その高機能化を目的として、様々な表面改質処理を施して使用されています。その目的は、疲労強度や耐食性、耐摩耗特性など様々です。ここでは、それらの特性向上を目的として近年開発した、新しい表面改質プロセスについて紹介いたします。

## マテリアル

BOOTH  
21 超撥水・超撥油性を用いた  
防汚コーティング

物理情報工学科 准教授 白鳥 世明



超撥水・超撥油性を用いて水・油などの液体に対してまったく濡れない、防汚性を持つ表面を簡潔な方法で作製しました。作製した表面は水・サラダ油・醤油・マヨネーズ・ケチャップなどの様々な表面張力の液体に対して高い防汚性を示しました。また、実用化に向けての課題となる透明性及び耐久性をさらに向上させました。

## マテリアル

## 社会・環境

BOOTH  
22 バイオマテリアルを用いた  
機能性薄膜

物理情報工学科 准教授 白鳥 世明



近年、自然由来材料を用いた応用研究が広く行われています。当研究室ではカニの甲羅やイカの骨から精製可能なキチンといったバイオマテリアルに注目しました。これらのバイオマテリアルを用いた、ウェットプロセスで作製可能な機能性薄膜・ナノファイバーの研究を行い、反射防止膜や止血性ナノファイバーを作製しました。

## 情報コミュニケーション

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
23 傾聴のできる自動対話システム

情報工学科 教授 萩原 将文



会話によって学習して行くことができ、また特に高齢者との会話を考慮して、傾聴による発話意欲の高まりを意識した自動対話システムのデモを行います。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
24 メンタルスカウティング  
～次世代コミュニケーションのための  
情報提示システム～システムデザイン工学科 准教授 満倉 靖恵  
助教 藤 大樹

満倉研では、これまで脳波を用いた客観評価システムを開発してきており、さまざまな指標で人の精神状態をみる事ができます。これらの情報をヘッドマウントディスプレイ上に投影し、相手の情報を読み取ることで、より円滑なコミュニケーションを目指した次世代情報提示システムの研究を行っています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
25 電波センサ：電波を用いた行動識別

情報工学科 教授 大槻 知明



私達が提案している安全・安心のための電波センサを紹介します。電波センサは、電波伝搬の時間的な変化に基づいて行動を識別できます。一人暮らしの高齢者や介護施設での見守り用途が期待されています。また、電波センサの応用例の一つとして、多くの報道機関で取り上げられた転倒・転落検出システムを紹介します。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
26 非接触生体センシング

情報工学科 教授 大槻 知明



何も装着せずに生体情報等の取得・モニタが可能な非接触生体センシング技術を紹介いたします。一例として、呼吸や脈拍を離れた位置からセンシング可能な技術を紹介いたします。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
27 ZINK: ZNA Information  
Centric Networking

情報工学科 教授 **寺岡 文男**  
専任講師 **金子 晋丈**



今日のインターネットはユーザがコンテンツを取得するためには提供サーバの住所を指定する必要があります。しかしユーザから見たら、提供サーバはどれでもいいはず。我々は提供サーバ中心のネットワークからコンテンツ中心のネットワークに作り替えることで、ユーザが使いやすく安全なインターネットを提案します。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
28 高速なネットワーク経路  
切り替え技術

情報工学科 専任講師 **金子 晋丈**  
教授 **寺岡 文男**



今のインターネットにおいて、目的地までの経路は複数存在します。しかし、現在は、そのうちのたった一つしか使われていません。本研究は、複数の経路を高速に切り替えることで全経路帯域の最大利用を図ります。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
29 ビッグデータストレージ

情報工学科 専任講師 **金子 晋丈**  
教授 **寺岡 文男**



ビッグデータの登場によりデジタルコンテンツを世界中で高速かつセキュアに共有しその多様な関係性を保管共有するシステムが重要となっています。当研究室では広域分散ストレージシステム:Content Espressoおよび自律分散型関係性共有プラットフォーム:Catalogを開発しています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
30 オープンイノベーション  
プラットフォーム

システムデザイン工学科 准教授 **西 宏章**



情報オープンイノベーションプラットフォームを実現する核となるサービス指向ルータを利用した新しいインターネットサービスについてデモを行います。マルチサイトレコメンデーション、視聴率調査型ランキング、フィッシング詐欺防止、経路証明による書留通信、スマートグリッド応用といった未来を体験していただけます。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
31 スマートコミュニティインフラ

システムデザイン工学科 准教授 **西 宏章**



宮城県栗原市において、同一地域ながら異なるソーシャルキャピタル指数値をもつご家庭を対象としたHEMS実験や、様々な市の設備を利用したBEMS実験を融合した新しいスマートコミュニティを提案しています。展示では、実験で利用するHEMSや、情報オープンイノベーションとの関連についても体験していただけます。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
32 人間対ロボットの  
コミュニケーションに関する研究

情報工学科 准教授 **今井 倫太**



今井研究室では、人間とロボットとのコミュニケーションに関する研究を行っています。今回のテクノモールでは、ジェスチャー機能のあるエージェント、ストリーミング放送を行うウェアラブルパタ、可動式小型ディスプレイを展示しており、来場者の方とインタラクティブに頂けるようになっております。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
33 テーブルトップインタフェースを  
用いた窓口業務支援システム

情報工学科 教授 **岡田 謙一**



窓口業務を扱う店員にとっては、一対一の接客だけでなく、複数人の客と相対した際に各人の納得の得られるよう意見をまとめることも必要です。本システムはテーブルトップインタフェースを用いて、複数の客と接する時に視線検出といった客の行動から興味を分析し、店員が適切な商品を提案できるよう支援します。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
34 ビューアの無意識的行動で評価する  
遺伝的アルゴリズムによる  
適応的デジタルサイネージ

情報工学科 教授 **藤代 一成**



デジタルサイネージの表示内容を自動でより魅力的に変更するシステムを提案します。効果測定にビューアの無意識的行動を用いることで、ビューアが表示内容のどこを注目し、どのような感情を抱いているのかを評価し、また遺伝的アルゴリズムを用いることで、その評価をもとに自動で魅力的なデザインを学習・生成します。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
35 エラスティック光アグリゲーション  
ネットワーク

特許出願あり

情報工学科 教授 **山中 直明**



現在の通信ネットワークにおける問題である、トラフィックの増加、ネットワーク機器の消費電力の増加、耐災害性の向上を解決するために、効率的な資源の割り当て技術や複数サービスやトポロジーを同時に収容する技術、災害時に生き残った資源を組み合わせる高可用性ライフラインサービス技術の研究を行っています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
36 新世代ネットワークにおける  
省エネサービス配送を目指した  
E3-DCN

特許出願あり

情報工学科 教授 **山中 直明**



現在、インターネット上ではユーザが各々創造するコンテンツが無数に散らばっています。E3-DCNプロジェクトとは、そのようなネットワーク上に散らばるコンテンツを組み合わせた新しいコンテンツを省エネルギーでユーザに配送していくことを目指すネットワークを構成するというプロジェクトです。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
37EVNO  
～Energy Virtual Network Operator～

特許出願あり

情報工学科 教授 山中 直明



本研究では、既存電力網の送電システムを分離し、EVNOという第三者機関が複数の分散エネルギー源および需要を制御する次世代電力網を提案します。電力の需給バランスをM2M(=機械同士が相互通信する技術)により、高度に制御し、仮想的な発電システムの仕組みを提案します。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
38データマイニングと画像認識による  
人物行動理解と予測

電子工学科 准教授 青木 義満

映像中の人物の行動を認識・理解する画像認識技術と、蓄積された行動履歴データベースに対するデータマイニング技術を融合することで、高度な行動認識・理解を実現するのみならず、将来の行動を予測する技術を開発しています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
39画像センシングによる  
スポーツ映像解析

～選手の動き分析からチームの戦術理解まで～



電子工学科 准教授 青木 義満

様々なチームスポーツにおいて、実際の試合中の選手の動きやボールの軌跡の情報は、チームの戦術分析・理解、または魅せるコンテンツ生成のために必要不可欠です。様々なスポーツシーンにおいて、選手の動きや姿勢、アテンションといった情報を映像中から取得するセンシング技術と、その応用について紹介します。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
40視線推定と人物状態  
モニタリング技術の実応用

電子工学科 准教授 青木 義満

屋内外、様々な場面で、視線や姿勢情報を始めとした人物行動理解のためのセンシング技術に対するニーズが高まっています。本研究では、視線情報、人物姿勢情報などをリアルタイムで取得可能な画像センシング技術と、その実用事例について、実際のデモンストレーションを交えて紹介いたします。

## 情報コミュニケーション

## エレクトロニクス

BOOTH  
41

## サーモティクス



特許出願あり

システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎



ネットワークを介した次世代の超臨場感コミュニケーションを実現することを目的として、「温もり」を遠隔地に伝えるための新しいサーマルエネルギー変換技術の開発を行っています。ペルチェ素子を使用して温度と熱流を同時に制御する技術を開発し、温熱感覚を双方向に伝送することに成功しています。

## 情報コミュニケーション

## 社会・環境

BOOTH  
42超身体：  
時空間を越えるモーショメディア

特許出願あり

システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎



超身体は物理的な移動をすることなく時空間を越えた「知覚・行動」を可能にする新しいキーワードです。桂研究室では、個人のさらなる活動を支援するため、複合感覚情報を新しいマルチメディアとして取り扱うための感覚伝送プラットフォームの開発を行っています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
43モバイルアドホックネットワークにおける  
協調ビデオストリーミングと  
トラストベースのネットワークセキュリティ

情報工学科 教授 重野 寛

モバイルアドホック通信を用いたモバイル端末間の協調ビデオストリーミングサービスの研究および、モバイルアドホック通信における経路の信頼度を考慮したネットワークセキュリティの研究です。この研究によって効率的で安全なネットワークを構築することを目標としています。

## 情報コミュニケーション

## バイオメディカル

BOOTH  
44先端ICTを実現する  
革新的マイクロデバイス

機械工学科 准教授 三木 則尚

視線や触覚など五感を用いた先端的なICTのためには、我々の五感と環境をつなぐハードが不可欠です。三木研究室では、マイクロテクノロジーを使い、ウェアラブル視線検出システムや触覚ディスプレイなどの革新的なマイクロデバイスを開発しています。

## 情報コミュニケーション

BOOTH  
45エクサスケールコンピューティングの  
ためのポリマー光デバイス

物理情報工学科 准教授 石樽 崇明

エクサスケールの演算処理を可能にするハイパフォーマンスコンピュータの実現に向けて、演算チップ間をも光配線化する「オンボード光インターコネクト」技術に期待が高まっています。本研究では、広帯域・高密度光配線を実現するポリマー光デバイスを設計・試作し、実用に供する優れた特性を有する事を実証していきます。

## 情報コミュニケーション

## エレクトロニクス

BOOTH  
41

## サーモティクス



特許出願あり

システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎



ネットワークを介した次世代の超臨場感コミュニケーションを実現することを目的として、「温もり」を遠隔地に伝えるための新しいサーマルエネルギー変換技術の開発を行っています。ペルチェ素子を使用して温度と熱流を同時に制御する技術を開発し、温熱感覚を双方向に伝送することに成功しています。

## 社会・環境

## 社会・環境

BOOTH 46 空気流動真空蒸発法による  
Dichloromethane (DCM) を  
吸収した廃溶剤再生装置の開発

応用化学科 教授 田中 茂



現在、印刷工場の洗浄過程等から排出されるDCMによる健康被害が問題です。排気ガス中DCMの除去液で吸収する方法は有効な手段です。DCMを除去液で吸収すると大量の産業廃棄物を生み出し、除去液を再生して循環利用することが必要です。空気流動真空蒸発法を用いて、廃溶剤中DCMの蒸発分離法の開発を行いました。

## 社会・環境

BOOTH 47 PM2.5中化学イオン成分濃度の  
自動連続測定装置の開発

応用化学科 教授 田中 茂



インパクターで粒径2.5μm以上の粒子を取り除いた後、大気中NOx、SO2、HCL、HNO3、NH3をTiO2塗布した環状型拡散スクラバーで吸着除去し、粒径2.5μm以下の粒子(PM2.5)をミストチェンバーで純水を噴霧して捕集し、PM2.5中化学イオン成分をイオンクロマトグラフで分析します。

## 社会・環境

BOOTH 48 スマートエネルギー  
管理システムの最適制御

システムデザイン工学科 准教授 滑川 徹



再生可能エネルギーを含む分散型エネルギーシステムが注目を集めています。滑川徹研究室では大規模電力ネットワークの多種多様な発電機をうまく協調させながら、安全性を確保した上で、最適なスマートエネルギー管理システムの分散制御法について研究を推進しています。

## 社会・環境

## バイオメディカル

BOOTH 49 インクジェットプリント技術による  
医療・環境分析用化学センサー応用化学科 准教授  
チツペリオ・ダニエル

家庭用のプリンターに使われているインクジェットプリント技術は、大量生産が可能で工業分野でも利用されています。当研究室ではこの技術を利用して、紙を基板とすることで、安価で使い捨てができ、取り扱いが容易な医療・環境分析のための化学センサーの開発を行っています。

## 社会・環境

## バイオメディカル

BOOTH 50 健康・環境・医療・  
バイオイメージングに向けた  
化学センサー・プローブ

応用化学科 教授 鈴木 孝治



健康・環境・医療に向けた、より高度な化学センサー・バイオイメージング用プローブの開発を行っています。今回は当研究室で開発された(1)多検体の分析が可能な高輝度蛍光・発光色素 (2)医療・環境センシング用ナノマテリアル (3)細胞イメージング用プローブをご紹介します。

## 社会・環境

## 情報コミュニケーション

BOOTH 51 ネットワーク環境放射線  
計測システム

物理情報工学科 教授 松本 佳宣



センサ、集積回路技術によって、環境放射線量を低消費電力で測定を行い、温度、湿度などの環境情報を測定するモジュールを展示します。また、位置情報を含めた形でセンサネットワークによって送信して、サーバーで蓄積・解析を行い地図、航空写真と連携して表示を行うシステムの展示を行います。

## 社会・環境

BOOTH 52 緊急避難計画立案運用のための  
地理空間表現を導入したエージェント  
ベースシミュレーション環境の構築

管理工学科 専任講師 飯島 正



災害時の緊急避難計画を立案し運用するために人間の意思決定や行動をシミュレートするマルチエージェントシミュレーション技術が利用できます。そのとき刻一刻と変化する状況を反映した地理空間情報を利用できればシミュレーションの現実性を向上させることができます。この研究ではそのための基盤を構築しています。

## 社会・環境

BOOTH 53 ビジネスプロセス/ビジネスルール  
管理環境と文脈に基づく  
セキュリティモデル

管理工学科 専任講師 飯島 正



組織にまたがるワークフローやサービス指向アーキテクチャのためのビジネスプロセス/ビジネスルール管理環境を構築しています。加えて、ビジネスプロセスと密接に連動したセキュリティを実現する文脈に基づくアクセス制御モデルを提案しています。

## 社会・環境

BOOTH 54 人と人、人とモノの  
コミュニケーションを円滑にする  
支援技術

管理工学科 専任講師 飯島 正



対話において自然に表出する身振りは、コミュニケーションに重要です。しかし、その読み取り能力には個人差があります。また、人との対話や機器操作に心理的負担を感じる人もいます。そこで、センサーによって身振りを取得しコミュニケーションの向上に役立てたり、心理的負担の度合いを計測する技術を研究しています。

## 社会・環境

## BOOTH 55 反応流技術の新たな展開



機械工学科 教授 植田 利久



反応流技術とは、化学反応、生物反応を伴う流れを利用した技術です。エンジン燃焼、燃料電池用水素生成、反応器など、さまざまな分野で用いられています。本ブースでは、このような幅広い展開を見せている反応流の最近のトレンドを紹介します。今後、医療工学分野などへの応用なども期待されています。

## メカニクス

## メカニクス

## エレクトロニクス

## BOOTH 56 力覚センサなしに力を感じる次世代加工機

システムデザイン工学科 准教授 柿沼 康弘  
准教授 桂 誠一郎

付加的なセンサを用いることなく、工具の状態や加工の状況を認識する「力覚」を備えた次世代加工機械の開発に取り組んでいます。全軸0.01Nの分解能で力を感じることができる超精密加工機や研磨機、マイクロ工具の自動接触検知や機上計測技術などデモを交えて紹介します。

## メカニクス

## エレクトロニクス

## BOOTH 57 フィールドロボティクス・地上から宇宙へ

機械工学科 専任講師 石上 玄也



石上研究室では、月惑星や火山といった極限環境において活動するロボットを研究対象としています。オフロード上を走行する移動ロボットの力学解析や、自律移動システム(環境認識、経路計画、航法誘導制御)に関する研究、サンプル採取技術、特殊移動ロボットなどの研究開発を行っています。

## メカニクス

## 社会・環境

BOOTH 58 メカニズムでつくる無重力リンク  
～原理モデルからカタログ製品まで～

機械工学科 准教授 森田 寿郎



まるで無重力のようなバランス状態を電源なしで作るエコなリンク機構。重いもの長いものも自在にビタリと位置決めできる便利なメカです。今回は満を持して製品登場。インフラ向け「錘なしの踏切用遮断機」と製造・物流向け「タイヤ交換の支援装置」を展示します。シンプルなのでアイデア次第で幅広い業界に応用できます。

## メカニクス

## 情報コミュニケーション

BOOTH 59 匠の技・見える化と再現  
～モーションコピー～

システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎



本技術は、人間の動作のうち動きと力加減を忠実に再現するモーションコピーを実現します。特に、加速度制御を応用することにより、接触を伴う動作も再現することに成功しています。これにより、熟練技能の定量評価やロボットへのスキルの転写、スキルトレーニングへの応用など、革新的な技能伝承の実現が期待されます。

# パネル紹介

エレクトロニクス

バイオメディカル

## PANEL 60 微小光共振器を用いたセンシング応用

電子工学科 准教授 田邊 孝純



従来の光を用いたセンシングでは光と物質の相互作用が弱いために、デバイスのサイズと感度にトレードオフの関係があるという欠点を持っていました。そこで我々は微小空間に光を閉じ込める微小光共振器を用いることで、光と物質の相互作用を高め、小型かつ高感度なセンサーを実現しました。

エレクトロニクス

メカニクス

## PANEL 61 小型テラヘルツ偏波イメージング装置の開発

物理学科 准教授 渡邊 紳一



特許出願あり

私たちは、非破壊検査光源として注目されている「テラヘルツ電磁波」について、その偏光情報を用いたイメージング技術を提案しています。本展示では、技術の応用事例とともに、産業応用に向けた装置の小型化への取り組みについてご紹介したいと思います。

社会・環境

## PANEL 62 11桁の周波数決定精度をもつ分子分光計

物理学科 教授 佐々田 博之



特許出願あり

波長3ミクロンの分子スペクトルを高分解能高精度で記録する分光計を開発しました。導波路型波長変換素子による高効率差周波発生、光共振器吸収セルによる光電場・実効吸収長の増強、光周波数コムによる光源の周波数制御を組み合わせ、吸収線を $10^{-9}$ の分解能で観測し、中心周波数を $10^{-11}$ の精度で決定しています。

マテリアル

バイオメディカル

## PANEL 63 ダイヤモンド電極

化学科 教授 栄長 泰明



特許出願あり

ホウ素をドーパした導電性のダイヤモンドは、電極として利用するとすぐれた電気化学特性を示し、次世代のレアメタルフリーの新材料として期待されています。ここでは、環境汚染物質センサー、生体関連物質センサー、汚水処理電極、CO<sub>2</sub>還元電極、有用物質創製用電極などの応用例を紹介します。

バイオメディカル

メカニクス

## PANEL 64 電気力学的手法を用いたラベルフリーセルソーター

機械工学科 准教授 宮田 昌悟



再生医療などに代表される細胞を用いた医療では、治療効果の高い細胞を生化学的に標識せずに、分離する技術が重要です。本展示では、細胞を識別するための電気力学的現象である誘電泳動を紹介するとともに、これを用いたセルソーティングシステムを紹介いたします。

バイオメディカル

## PANEL 65 光診断技術のための生体モデリング

電子工学科 教授 岡田 英史



実測することができない生体組織における光の挙動をモデリングし、近赤外光を用いた脳機能イメージングなどの光診断技術への応用を行っています。

メカニクス

社会・環境

## PANEL 66 超音波による非破壊評価

機械工学科 教授 杉浦 壽彦



構造物に発生する傷や材料的な劣化、複合材に生じる剥離などの位置や大きさを同定する非破壊評価は、高度化する産業技術の保全や精度向上のために重要となっています。本研究室では、電磁超音波による非接触検査、ガイド波による長大構造物検査、非線形信号による閉口き裂検査等の超音波診断技術の開発に取り組んでいます。

情報コミュニケーション

社会・環境

## PANEL 67 スマートコミュニティ基盤ネットワーク

電子工学科 専任講師 久保 亮吾



連携技術セミナー

我々は様々なインフラや機器がネットワーク化されたスマートコミュニティを広域センサ・アクチュエータネットワークと捉えています。本展示ではスマートコミュニティを実現するための省エネルギーで低遅延な通信ネットワーク技術についてご紹介いたします。

情報コミュニケーション

## PANEL 68 高効率セキュアモバイルアドホックネットワーク

情報工学科 教授 笹瀬 巖



モバイルアドホックネットワークでは、セキュアなルーチング、マルチホップ通信が必須です。私たちは、セキュアモバイルアドホックネットワークにおける、リアルタイム、省電力、高信頼性、高スループットを達成するルーチング、メディアアクセス制御方式に関する研究を行っています。

情報コミュニケーション

## PANEL 69 多様な構造型ストレージ技術を統合可能な再構成可能ハードウェア

情報工学科 専任講師 松谷 宏紀



FPGAを用いてNOSQL(キーバリュ型、カラム指向型、グラフ型などの構造型ストレージ)のためのハードウェアアクセラレータを開発しています。

情報コミュニケーション

## PANEL 70 照明を利用した歩行者ナビゲーション

情報工学科 教授 大槻 知明



特許出願あり

スマートフォンを使った歩行者ナビゲーションの位置精度を改善する手法として、照明を利用した方法を紹介いたします。この手法は、店舗や廊下などの規則的に配置されている照明を自動的に検出し、その検出情報を用いて位置精度を高めることができます。

# テクノモール攻略MAP

「成功プロセス」をイメージできるデモ展示は必見!

1日限りの出会いの場 KEIO TECHNO-MALL。  
連携相談窓口やコンタクトリクエストポストをフル活用して効率的に見学いただき、  
充実した時間をお過ごしください。

B2F

【イベント会場】

研究者によるラウンドテーブルセッションと、  
理工学部創立75年記念イベントを行います。  
※詳しくは、P10-11をご参照ください。

イベント会場

【セミナー会場】

研究者による連携技術セミナーが行われます。  
※セミナーの詳細は、P11をご参照ください。

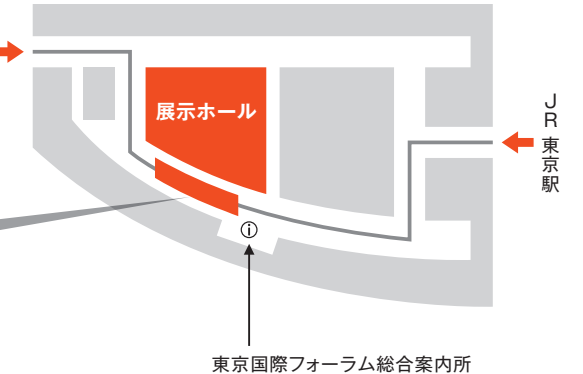
セミナー会場

B1F ロビー・受付

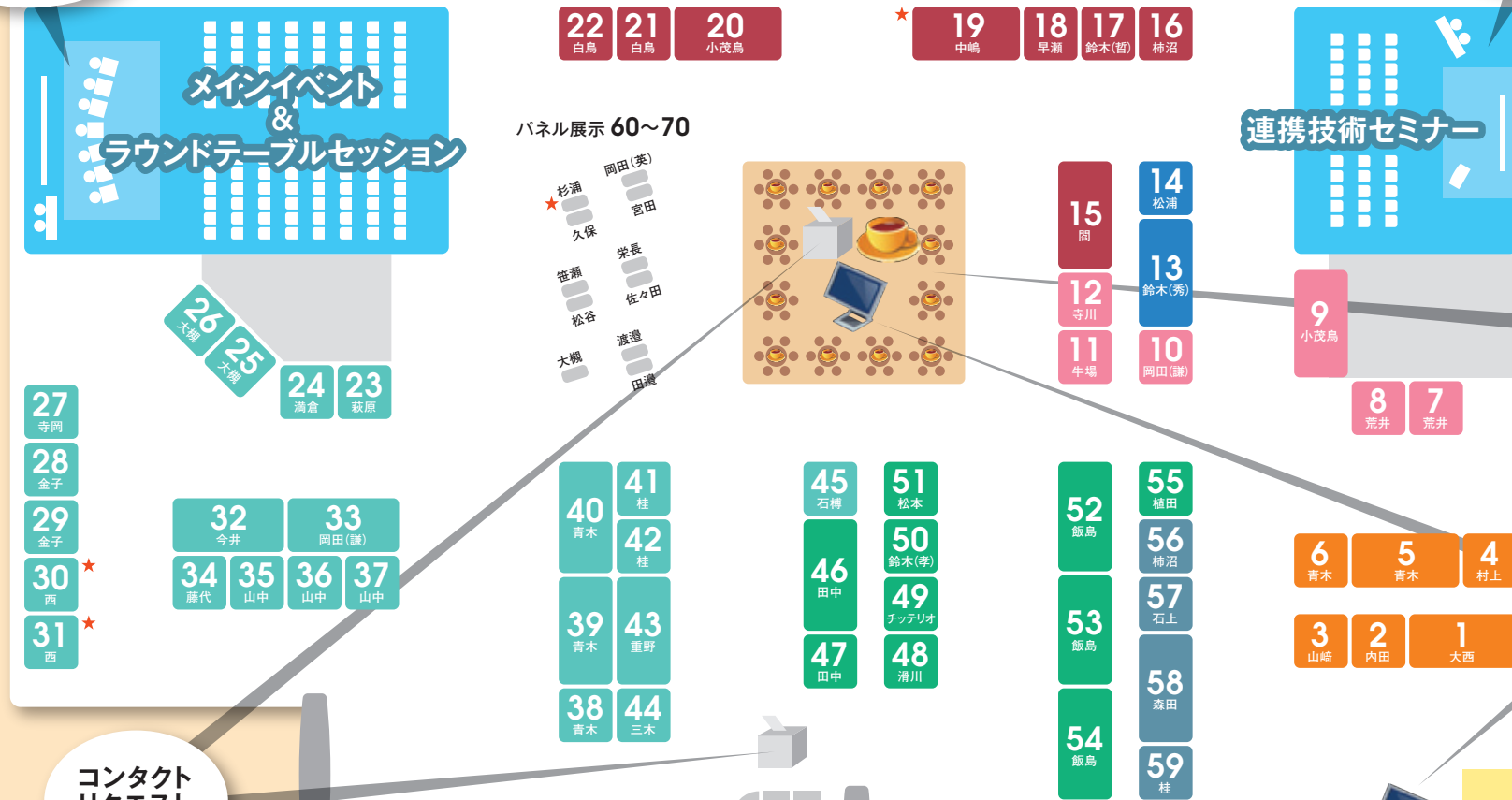
受付でパンフレットと入場パスを  
お受け取りください。

テクノモール  
受付

地下鉄  
有楽町駅



※イベント・セミナーの詳細は、P10-11をご参照ください。



コンタクト  
リクエスト  
ポスト

【コンタクトリクエストポスト】  
コンタクトリクエスト(カード)とポストを展示会場  
に2か所設置しています。個別に連絡をとり  
たい研究者がいましたら、コンタクトリクエスト  
カードにご要望・ご希望をご記入のうえ、ポスト  
にご投函ください。

【アンケートコーナー】  
お帰りの際はアンケートをお願いいたします! アンケートを  
ご提出いただいた方にオリジナルバッグもしくはノート  
をプレゼントします。お好きな方をお選びください。

アンケート  
コーナー

連携相談  
窓口

【連携相談窓口】  
会場入口近くに産学連携の相談窓口を設けています。「こんな連携  
方法を考えている」、「慶應義塾保有の特許に関する情報や、利用  
に関する手続きが知りたい」など、皆さまからのご相談、ご質問に  
対応いたします。お気軽にご相談ください。

理工学部  
創立75年  
記念展示

カフェ  
コーナー

【カフェコーナー】  
会場見学の合間の休憩の場として、  
また、懇談の場としてお気軽にご利用  
ください。

インタビュー  
中継

【インタビュー中継】  
出展者に展示の見どころをインタビュー  
し、その模様をライブ中継します。  
気になったブース・パネルがありましたら  
ぜひ訪問してみてください。

連携  
打ち合わせ  
コーナー

【連携打ち合わせコーナー】  
「製品化に協力してほしい」、「こんな課題  
に対応したい」など産学連携に向けた具体  
的な話をしたいという方に、研究者や連携  
相談コーディネーターとのお打ち合わせの  
場をご用意しています。

■ イベント会場 (96席)

ラウンドテーブルセッション (各80分)

10:30-11:50 I 産学連携のはじめかた

15:40-17:00 II 新機能性マテリアル研究から育つ夢

メインイベント (90分)

13:30-15:00 今こそ大学に求められる世界人の育成:  
理系男女の挑戦

■ セミナー会場 (30席)

連携技術セミナー (各30分)

12:20-12:50  
タンパク質構造の変化で紐解く神経難病のメカニズム

13:00-13:30  
化学センサーをインクジェット技術で紙に印刷

15:10-15:40  
通信ネットワークを制御システムとして捉える

分野別カラー

エレクトロニクス

バイオメディカル

管理工学

マテリアル

情報  
コミュニケーション

社会・環境

メカニクス

ブース展示

42名の研究者による7分野・59ブースが展示されています。  
各ブースで研究者や学生による説明を聞きながら  
展示物に触れたり、デモンストレーションを  
体験したりすることができます。

パネル展示

11名の研究者によるパネル展示コーナーです。

★ 注目研究ブース・パネル

新規性や話題性の高い研究成果を展示している  
注目研究ブース・パネルです。  
当日は会場内でインタビュー中継を行う予定です。

研究者	No.	掲載ページ
★ 中嶋 敦	ブース No.19	P.18
★ 西 宏章	ブース No.30 / 31	P.20
★ 杉浦 壽彦	パネル No.66	P.29



# KEIO TECHNO-MALL 2013

## Event Schedule

### イベント会場 (96席)

10:00	10:00-10:15 中継 (開会宣言)
10:30	10:30-11:50 (80分)
11:00	<b>ラウンドテーブルセッションI</b> <b>「産学連携のはじめかた」</b> (公財) 川崎市産業振興財団 産業支援部長 <b>櫻井 亨</b> 氏 (公財) 横浜企業経営支援財団 経営支援部長 <b>長谷部 亮</b> 氏 研究連携推進本部 産学官連携コーディネーター <b>竹内 正雄</b> 理工学部 機械工学科 准教授 <b>宮田 昌悟</b> KLLリエゾン・オフィス マネージャー <b>佐藤 千恵</b> KLL副所長 <b>岡田 英史</b> (ファシリテータ)
11:30	
12:00	12:15-13:15
12:30	インタビュー中継 (注目研究ブース・パネルインタビュー)
13:00	
13:30	13:30-15:00 (90分)
14:00	<b>メインイベント ~ 理工学部創立75年記念イベント ~</b> <b>「今こそ大学に求められる世界人の育成： 理系男女の挑戦」</b> ストームハーバー証券株式会社 代表取締役社長 <b>那珂 通雅</b> 氏 アレックス株式会社 代表取締役社長兼CEO <b>辻野 晃一郎</b> 氏 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 アソシエイトリサーチャー <b>遠藤 謙</b> 氏 理工学部 外国語・総合教育教室 教授 <b>小原 京子</b> 理工学部 外国語・総合教育教室 専任講師 <b>井本 由紀</b> 理工学部 物理情報工学科 教授 <b>伊藤 公平</b> (ファシリテータ)
14:30	
15:00	
15:30	15:40-17:00 (80分)
16:00	<b>ラウンドテーブルセッションII</b> <b>「新機能性マテリアル研究から育つ夢」</b> 理工学部 電子工学科 教授 <b>内田 建</b> 理工学部 化学科 教授 <b>栄長 泰明</b> 理工学部 物理学科 准教授 <b>能崎 幸雄</b> 理工学部 物理情報工学科 准教授 <b>早瀬 潤子</b> (ファシリテータ)
16:30	
17:00	
17:30	
18:00	

### セミナー会場 (30席)

10:00	10:00-10:15 中継 (開会宣言)
10:30	
11:00	ラウンドテーブルセッションI 中継
11:30	
12:00	12:20-12:50 (30分)
12:30	<b>連携技術セミナー</b> <b>「タンパク質構造の変化で紐解く神経難病のメカニズム」</b> 理工学部 化学科 准教授 <b>古川 良明</b>
13:00	13:00-13:30 (30分)
13:30	<b>連携技術セミナー</b> <b>「化学センサーをインクジェット技術で紙に印刷」</b> 理工学部 応用化学科 准教授 <b>チッターリオ・ダニエル</b>
14:00	メインイベント中継
14:30	
15:00	15:10-15:40 (30分)
15:30	<b>連携技術セミナー</b> <b>「通信ネットワークを制御システムとして捉える」</b> 理工学部 電子工学科 専任講師 <b>久保 亮吾</b>
16:00	ラウンドテーブルセッションII 中継
16:30	
17:00	
17:30	
18:00	